

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242027

研究課題名(和文)自然会話リソースバンク構築による世界的教材共有ネットワーク実現のための総合的研究

研究課題名(英文)A global study on construction of Natural Conversation Resource Bank for world-wide network of Communication teaching Materials

研究代表者

宇佐美 まゆみ (USAMI, Mayumi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90255894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,500,000円

研究成果の概要(和文)：『BTSJによる日本語会話コーパス(トランスクリプト・音声)2015年版』(333会話、約78時間)、話者同士の関係等の会話の社会的要因、及び「自然会話教材作成支援システム」機能を組み込んで、自然会話コーパスと自然会話教材のリソースとなりうる自然会話データの保存の一元化を行い、「共同構築型データベース」として「自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)」の基盤を構築した。また、『BTSJ文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット(2015年版)』を完成し、語用論、対人コミュニケーション研究の効率化を実現した。

研究成果の概要(英文)：We've constructed what we call "Natural Conversation Resource Bank (NCRB)" which incorporates the "BTSJ Corpus of Japanese Conversational Interaction (with transcripts, sounds and movies) ver.2015" (333 conversations, 78 hours), database of social factors of conversations, and the auto-support system of "making communication teaching materials using natural conversation data". These data become resource of natural conversation corpus and "teaching materials using natural conversation data". We've also constructed a "BTSJ system-set" for auto-calculation of basic descriptive statistics for one file and more than one file. We believe that this "Natural Conversation Resource Bank (NCRB)" as "Conversational Interaction Corpus database for Collaborative Construction" will contribute to make the progress of the research fields of pragmatics and interpersonal communication.

研究分野：日本語教育学、語用論、談話研究、対人コミュニケーション論、言語社会心理学

キーワード：会話分析、話し言葉コーパス、コーパス言語学、語用論、談話研究、自然会話の教材化、教材リソースバンク、話し言葉データバンク

1. 研究開始当初の背景

<言語教育に応用可能な「自然会話リソースバンクの構築」とその研究に関する学術的背景>

従来国内外の自然会話研究の多くは、少量のデータを扱う定性的なアプローチに留まっており、会話参加者間の社会的関係、既知度、会話の場面性などの社会的要因を考慮して収集した大規模な談話データに基づく「定量的分析」はほとんど行われていない。

また、昨今盛んに構築される「言語コーパス」の大半は、語数や品詞、形態素の数を算出し、言語形式の共起関係を抽出するなど、文法理論や自動翻訳機制作に貢献しようとする言語学的、工学的目的に即したものである。その結果、会話における微妙な「間」が、対人コミュニケーション上のような機能を持っているかといったような「人間の相互作用研究」に適し、且つ、定量的分析・定性的分析の双方が可能な「自然会話コーパス」はほとんどない。しかし、日本語教育をはじめとする言語教育には、このようなコーパスこそが切望されている。

本研究代表者は、平成 7-8 年度、13-14 年度、及び、平成 15-18 年度、平成 20-22 年度の 4 回、計 11 年間に渡って科研費補助金を得て、定性的・定量的双方の分析に適した会話データの文字化と解析のシステムである「基本的な文字化の原則 (BTSJ: Basic Transcription System for Japanese)」を開発し、データベース化を行い、タグ付けした自然会話コーパスを構築し、その公開と無料配布を行ってきた。<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usami/ken/danwaindex.htm>しかし、これらのデータは、様々なタイプのデータを拡充し、より多くの研究者に利用してもらうためには、その配布方法も合理化する必要がある。

<自然会話リソースバンクの構築による世界的教材共有ネットワークの実現に関する学術的背景>

昨今の談話行動の語用論的研究や、自然会話と創作会話の比較研究等から、創作された会話教材の不自然さが指摘され、自然会話を素材とする教材へのニーズが、特に、普段自然なコミュニケーション場面に触れる機会が少ない海外の日本語教育現場において高まっている。

しかし、場面や状況が無限にあると自然会話を、どのような観点から教材化するかといった問題や、自然会話の録画や文字起こし、及び、その教材化には、膨大な時間と労力がかかることがネックになっており、未だ、体系化された「自然会話教材」は、英語など他の言語の教材も含めて、ほとんどない。本研究が企図するネットワークを介して、オンラインで世界中で共有で

きる「ユビキタス型自然会話教材」は、管見の限り、世界的に例がない。

上記のような研究動向を踏まえ、本研究代表者は、平成 20-22 年度に、「挑戦的萌芽研究」において、作成に膨大な時間と労力がかかるという問題を解決するために、試作された自然会話教材をリソースとしてプールし、世界中で共有して、随時、現地の事情やニーズに応じて加工したり、教授項目を追加しながら、Web 上で活用していくことができる「自然会話教材作成支援システム」の機能を持つ「自然会話教材リソースバンク」の考案を行った。そして、それを地球レベルで共有するための体系的なシステムを構築するための探索的研究を行い、試作版を作成した。本科学研究では、これらの成果に基づいて、試作教材を拡充するとともに、自然会話コーパス・データベースとデータ保存を一元化し、「共同構築型データベース」としての「自然会話リソースバンク (NCRB: Natural Conversation Resource Bank)」を共有化することによって、関連分野の研究を合理化していく必要がある。

2. 研究の目的

- (1) BTSJ に基づく文字化プロセスを一部自動化することによって、「人間の相互作用の研究」に適した質の高い「自然会話コーパス (音声・映像)」構築の時間と労力を大幅に軽減する。
- (2) 文字化システムに自動集計機能を搭載し、会話の場面、人数、内容、話者情報等々をデータベース化することによって、自然会話コーパスを利用する研究の効率化と高度化をはかる。
- (3) 構築した「自然会話コーパス (音声・映像)」を、「語用論的研究」と「自然会話教材開発」のためのリソースバンクとして共有化し、一元管理することによって、自然会話データの入力・保存と、会話内容や話者に関する情報の検索・抽出や、データを利用した自然会話教材の作成が、体系的・総合的にできるようにする。
- (4) 「自然会話リソースバンク」を公開し、世界各地のニーズに応じた教材のアップロードや既存の教材への追加・加工が行える「自然会話教材作成支援システム」を構築することによって、世界各地からオンラインで情報検索ができ、ユビキタス環境で自然会話素材の共有化と教材作成・利用ができる、研究と教材化作業が一体となった共同構築型データベースである「世界的教材共有ネットワーク」(自然会話リソースバンク (NCRB: Natural Conversation Resource Bank) を実現する。
- (5) 自然会話リソースバンクにある自然会話データを活用した語用論、対人コミュニケーション、日本語教育に関する研究を推進する。

3. 研究の方法

既に研究代表者らが構築してきた以下の「自然会話コーパス」の拡充・整備を行う。
 (宇佐美：基盤B(15-18年度、20-22年度))

『BTSによる多言語話し言葉コーパス-日本語会話1,2』

『BTSによる日本語話し言葉コーパス1(初対面・友人、雑談・討論・誘い)』
 BTSJ文字化入力支援・自動集計システムの機能拡張・精緻化を行う。

会話に関する情報(場面、人数、内容、話者同士の関係等々)のデータベース化(情報検索・抽出システムの構築)を行う。
 リソースの一元化にかかわる作業を行い、「共同構築型データベースとしての「自然会話リソースバンク(NCRB: Natural Conversation Resource Bank)」を構築する。

これらのデータベースの拡充・整備を行いながら、NCRBの改善方法や運用方法、新たな研究の視点を開拓していく。また、また、NCRBに格納されている自然会話データを活用して、語用論、対人コミュニケーション、日本語教育に関する研究を行っていく。

以下の図1に、「研究計画・方法の全体図」を図示する。

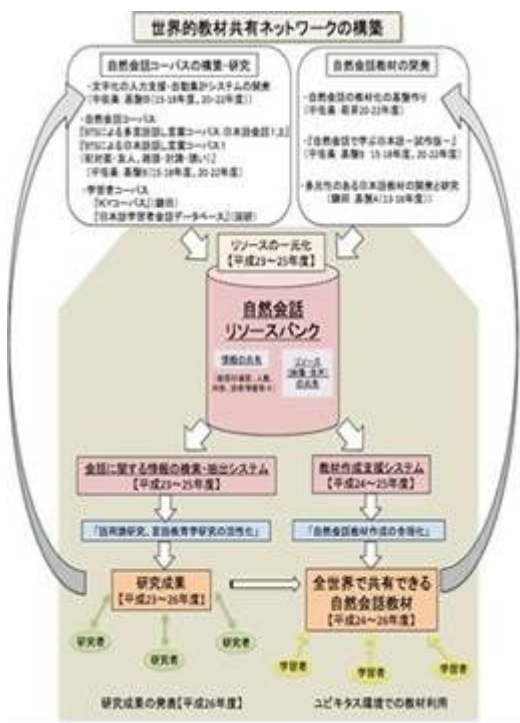


図1 研究計画・方法の全体図

4. 研究成果

主な研究成果は、以下の通りである。

- (1) 『BTSJによる日本語会話コーパス(トランスクリプト・音声)2015年改訂版』333会話、総時間4718分45秒(約78時間)、うち音声付きデータ203会話、2363分48秒(約39時間)を完成した。
- (2) これに伴い、作成済みの会話に関する情報(場面、話者人数、話者同士の関係、話題内容等々)のデータベースも、自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)に組み込み、精緻化した。
- (3) 『BTSJ文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット(2015年版)』を完成した。
- (4) 「BTSJ活用方法講習会」を10回(国内7回、海外3回)を開催した。
- (5) 「共同構築型データベース」自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)を構築した。
- (6) 開発し構築したコーパスやデータベースに格納したデータや機能を用いて、「自然会話を素材とするコミュニケーション教材」を作成した。
- (7) 上記の成果物(NCRBデータベース内に格納した自然会話データ、『BTSJ文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット』)を活用して、語用論、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーション、ポライトネス理論、ディスコース・ポライトネス理論などに関する研究を行い、国内外で様々な形で、発表した。(以下の主な発表論文等を参照のこと)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計30件)

1. 宇佐美まゆみ(2014)「ディスコース・ポライトネス理論の新構想と異文化コミュニケーション 日中比較を中心に」徐一平編『中国日本語教学研究文書之10』、査読有、19-46.
2. 宇佐美まゆみ(2014)「ディスコース・ポライトネス理論とその応用について～ミスコミュニケーションの予防や解決のために～」『信学技報』114:67, 49-54.
3. 宇佐美まゆみ(2014)「ポライトネスから見た母語話者のことばと学習者のことば」『韓国日語教育学会2014年度第26回国際学術大会予稿集』13-32.
4. 宇佐美まゆみ(2014)「NCRB(Natural Conversation Resource Bank)の開発とその意義について これからのコーパスのあり方とその研究・教育への活用

- 法への一提案」『第8回日本語実用言語学国際会議(ICPLJ)』、査読有、128-131. 国立国語研究所.
5. 宇佐美まゆみ・野口英美・木林理恵(2014)「初対面二者間会話における話題導入と展開のプラクティス」『第71回言語・音声理解と対話処理研究会資料』23-28.
 6. 木林理恵(2014)「基本的な情報の算出から見る会話の特徴」『第8回日本語実用言語学国際会議(ICPLJ8)予稿集』、査読有、164-165.
 7. 宇佐美まゆみ(2013)「異文化間ミス・コミュニケーションとディスコース・ポライトネス理論」韓美卿編『日本語・日本語教育』J&C, 291-304.
 8. 宇佐美まゆみ(2013)「会話データの作成・分析「総合的会話分析」と「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」」『日本語学』、依頼原稿、32:14, 132-147
 9. 林俊成(2013)「インターネットを用いた言語教育の可能性」『外国語教育とコンピュータ科学:第二言語習得・eラーニング・学習者コーパス、76-83.
 10. 宇佐美まゆみ(2012)「母語話者には意識できない日本語コミュニケーション」『日本語教育のためのコミュニケーション研究』1,63-82
 11. 宇佐美まゆみ(2012)「視点としての日本語教育学 学際的複合領域研究群の構築に向けて」『超域的日本語教育国際学術検討会 - <視点としての日本語教育学の提唱>ならびに<学際的複合領域研究群の構築> - 発表論文集』1, 1-12
 12. 宇佐美まゆみ(2012)「自然会話を素材とする教材」の開発の意義 新しい視点に立った日本語コミュニケーション教材」『インドネシア中等および高等教育機関における日本語学習者の会話能力向上をめざして』1, 276-277.
 13. 宇佐美まゆみ(2012)「意識していない日本語コミュニケーションの教材化」『インドネシア中等および高等教育機関における日本語学習者の会話能力向上をめざして』1, 277-285.
 14. 宇佐美まゆみ・中俣尚己(2012)「『BTSJによる日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声)2011年版』の設計と特性について」『第3回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』1, 217-228.
 15. 黄美花(2012)「接触場面の自然会話における『なんか』の機能のポライトネス効果 ディスコース・ポライトネス理論の観点から」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』、査読有、8, 247 - 262.
 16. 宇佐美まゆみ(2011)「ディスコース・ポライトネス理論と日本語教育 - 視点としての日本語教育学へ - 」『中日文化論叢』28, 1-27.

〔学会発表〕計(71)件

1. 宇佐美まゆみ(2015)「第10回 BTSJ 活用方法講習会」2015年3月27日, 東京外国語大学、東京、3月27日.
2. 宇佐美まゆみ(2015)「共同構築型」自然会話コーパス(NCRB)・自動集計機能付き文字化ツール(BTSJ)と話しことば研究」ポスター、『第10回話しことばの言語学ワークショップ』2015年3月16日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東京
3. 宇佐美まゆみ(2015.2.24)「自然会話分析のための文字化入力支援と基本的な分析項目の自動集計システムの活用方法」『岩崎勝一教授セミナー』2015年2月24日, ハワイ大学、ホノルル、USA
4. USAMI, Mayumi (2014) "Discourse Politeness Theory and Second Language Education(招待講演)" 2014年11月20日, Donald Keene Center of Japanese Culture, Columbia University, New York, USA
5. 宇佐美まゆみ(2014)「自然会話を素材とする教材とそのデータベース(NCRB)の開発 - 自然会話のグローバル・プロフィール養成教材としての意義とそのDB化の意義 - (招待講演)」2014年11月17日, UC Berkeley, California, USA
6. 木林理恵(2014)「協調的な言語行動としての共同発話文 会話データから日本語教育に示唆されること」『2014年度日本語教育学会秋季大会』2014年10月12日, 富山国際会議場
7. 宇佐美まゆみ「ディスコース・ポライトネス理論から見るアイデンティティ」『CAJLE 2014年次大会』2014年8月20日, Best Western Ville-Marie Hotel & Suites, Montreal, Canada
8. 宇佐美まゆみ(2014)「対人コミュニケーション理論としてのディスコース・ポライトネス理論」『日本社会心理学会第55回大会』2014年7月26日, 北海道大学, 札幌.
9. 宇佐美まゆみ(2014)「ディスコース・ポライトネス理論と言語教育(招待講演)」2014年7月13日, オークランド大学、オークランド、ニュージーランド
10. 宇佐美まゆみ(2014)「自然会話を素材とする共同構築型 WEB 教材の提案」『2014年日本語教育国際研究大会(ICJLE14)』2014年7月12日, シドニー工科大学、オーストラリア
11. USAMI, Mayumi (2014) "Constructing Natural Conversation Resource Bank (NCRB) network for pragmatic research and for making teaching materials for language education, " " the 16th International

- Conference on Human-Computer Interaction”, 2014年6月24日, Crete Maris Beach Resort & Convention Center, Heraklion, Crete, Greece
12. USAMI, Mayumi (2014) “ Discourse Politeness Theory and Language Education, ”“ the 4th international conference on foreign language teaching and applied linguistics, and international forum on cognitive linguistics ” 2014年5月9日, International Burch University, Sarajevo, Bosnia and Herzegovina
 13. 宇佐美まゆみ(2014) 「NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の開発とその意義について これからのコーパスのあり方とその研究・教育への活用方法への一提案 」『第8回日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ)』2014年3月23日, 国立国語研究所
 14. 宇佐美まゆみ(2013) 「総合的会話分析について(招待講演)」2013年9月2日, グルノーブル大学、グルノーブル、フランス
 15. USAMI, Mayumi (2013) “ Topic management strategies in conversation with a newly acquainted people : From the viewpoint of "discourse politeness ”“ 2013 Conference Puerto Rico, ISLS (International Society for Language Studies)” 2013年6月11日 ,The Sheraton Old San Juan Hotel and Casino, San Juan, USA
 16. 宇佐美まゆみ・中俣尚己(2013) 「『BTSJ による日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声) 2011年版』の設計と特性について」『第3回 コーパス日本語学ワークショップ』2013年2月28日, 国立国語研究所.
 17. 宇佐美まゆみ(2012) 「自然会話の文字化方法」『中国日本語教育研究会(招待講演)』2012年12月16日, 西安外国語大学
 18. 宇佐美まゆみ(2012) 「ディスコース・ポライトネス理論と異文化間コミュニケーション」『中国日本語教育研究会(招待講演)』2012年12月15日, 西安外国語大学
 19. 宇佐美まゆみ(2012) 「自然会話を素材とするWEB教材の開発とそのデータベース化」『中国日本語教育研究会(招待講演)』2012年12月14日, 西安外国語大学
 20. 宇佐美まゆみ(2012.11.17) 「母語話者の日本語会話」『国立国語研究所日本語教育研究・情報センターシンポジウム(招待講演)』2012年11月17日, 星陵会館
 21. 宇佐美まゆみ(2012) 「自然会話を素材とするWEB教材の開発とそのデータベース化」『中国日本語教育研究会(招待講演)』2012年12月14日, 西安外国語大学
 22. 宇佐美まゆみ(2012) 「意識していない日本語コミュニケーションの教材化」『インドネシア日本語教育学会』2012年9月21日, Ballroom Hotel Nirmala Denpasar, Bali
 23. 宇佐美まゆみ(2012) 「ワークショップ 会話分析入力支援・自動集計システムの開発と活用方法」『日本語教育とコンピュータ 国際会議』2012年8月21日, 名古屋外国語大学
 24. 宇佐美まゆみ(2012) 「会話分析のための文字化入力支援・基本的な分析項目の自動集計システムの開発とその活用方法」『2012年日本語教育国際研究大会(ICJLE2012 名古屋)』2012年8月19日, 名古屋大学
 25. 宇佐美まゆみ(2012) 「会話分析の方法論の再検討 定量的・定性的分析を含む総合的会話分析に向けて」『2012年日本語教育国際研究大会(ICJLE2012 名古屋)』2012年8月19日, 名古屋大学
 26. 宇佐美まゆみ(2012) 「会話分析のための文字化入力支援・基本的な分析項目の自動集計システムの開発とその活用方法」『ロンドン大学(SOAS)主催講習会(招待講演)』2012年8月4日, 国際交流基金ロンドン事務所
 27. USAMI, Mayumi (2012) “ Why Japanese women ’ s language should be politer than men ’ s: A hidden hegemony using the language ” 『Paris International Congress of Humanities and Social Sciences Research』2012年7月27日, Hotel Concorde La Fayette, Paris, France
 28. 宇佐美まゆみ(2012) 「自然会話を素材とするWEB教材の開発の趣旨と試作版の紹介」『言語社会心理学研究会』2012年6月28日, カタルーニャ公開大学
 29. 鎌田修(2012) 「日本語の会話ができるとは」『東シベリア・極東日本語学・日本語教育シンポジウム(招待講演)』2012年3月3日, ロシア連邦極東大学
 30. 宇佐美まゆみ(2011) 「談話研究と日本語コミュニケーション研究」『韓国外国語大学大学院日本学部 特別講義(招待講演)』2011年11月22日, ソウル、韓国
 31. 宇佐美まゆみ(2011) 「日本語コミュニケーションとポライトネス」『中央大学校特別講義 (招待講演)』2011年11月21日, ソウル、韓国
 32. 宇佐美まゆみ(2011) 「話し言葉コーパスの構築とその活用 - プロフィシエンシー研究と自然会話の教材化を中心に」『第16回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム』2011年8月26日, タリン、エストニア

33. 黄美花(2011)「母語場面と接触場面の自然会話における『なんか』の機能に関する一考察 日、中、韓母語話者の初対面会話に着目して」『第二回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム』2011年8月23日, 延辺大学, 中国
34. 木林理恵(2011)「日本語会話における共同発話文の性質とそのポライトネス効果」『世界日本語教育研究大会』2011年8月20日, 天津外国語大学, 中国
35. 黄美花(2011)「接触場面の自然会話における『なんか』の機能に関する一考察 ディスコース・ポライトネス理論の観点から」『世界日本語教育研究大会』2011年8月20日, 天津外国語大学, 中国
36. 宇佐美まゆみ、木林理恵(2011)「自然会話分析のための文字化入力支援及び基本的な分析項目の自動集計ツールとその活用方法」『2011年世界日本語教育研究大会』2011年8月19日, 天津, 中国
37. 宇佐美まゆみ(2011)「自然会話に見るオーセンティシティとその教材としての意義」『第8回国際 OPI シンポジウム(招待発表)』2011年8月7日, ポートランド、アメリカ
38. USAMI, Mayumi (2011)「Why Japanese Women's Language should be politer than men's: A Hidden Hegemony using the language」『International Society for Language Studies』2011年6月23日, Aruba
39. USAMI, Mayumi (2011)「How to be polite and friendly in Japanese: A speech-level-shifts analysis」『2011 Hawaii International Conference on Social Sciences』2011年6月2日, Honolulu, USA
40. 宇佐美まゆみ(2011)「女ことばの実態と日本文化 (True identity of women's language and Japanese culture)」『ATJ Annual conference』2011年4月2日, Honolulu, USA

〔図書〕計(1)件

鎌田修他(2012)『対話とプロフィেশナー：コミュニケーション能力の広がり と高まりをめざして』凡人社、199頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/p/usamiken/>

6. 研究組織

- (1)研究代表者
宇佐美 まゆみ (USAMI, Mayumi)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：90255894
- (2)研究分担者
林 俊成 (LIN, Chunchen)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：70287994
- (3)研究分担者
西郡 仁朗 (NISHIGORI, Jiro)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号：20228175
- (4)研究分担者
鎌田 修 (KAMADA, Osamu)
南山大学・人文学部・教授
研究者番号：20257760
- (5)研究分担者
由井 紀久子 (YUI, Kikuko)
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：20252554
- (6)研究協力者
木林 理恵 (KIBAYASHI, Rie)
- (7)研究協力者
黄 美花 (HUANG, Meihua)
- (8)海外研究協力者
品川 覚 (SHINAGAWA, Satoru)